

株主の皆様へ



代表執行役
グループCEO
永井 浩二

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第110期の上半期の経営状況について、ご報告いたします。

当上半期の我が国経済は、デフレ脱却と経済再生を目標とした「アベノミクス」への期待がいつそう高まり、成長軌道への回帰が現実のものとなって参りました。財政再建に向けた消費税率引き上げの決定、東京への五輪招致成功など、日本経済復活に向けた着実な進展が見られます。

海外に目を転じますと、米国の量的緩和(QE3)の縮小問題や、財政協議の難航、南欧諸国における財政問題、中国経済の減速など、リスク要因が継続する一方、米独の主要株価指数が史上最高値を更新するなど、世界的な金融緩和の継続が市場を支えました。

こうした中、当社は、2016年3月期までに1株当たり当期純利益(EPS)50円を達成することを目標として掲げ、全地域、全ビジネス部門における黒字化に着手し、海外各拠点を中心にビジネスの選択と集中を行いました。昨年掲げた、総額10億ドルのコスト削減目標を達成し、お客様のニーズに合致したビジネスを推進したことから、第110期の上半期は、好調な業績を確保することができました。

9月末を基準日とする配当金につきましては、国内外の金融資本規制環境や連結業績等を総合的に勘案し、1株当たり8円とさせていただきます。

いよいよ来年初めからスタートする非課税制度のNISAの普及・利用促進への取組みは、我が国の持続的成長に向けて、証券業に課せられた重要な使命の一つであると同時に、当社のビジョンの実現に向けた取組みそのものであると考えております。当社は、「すべてはお客様のために」という基本観に立ち、「アジアに立脚したグローバル金融サービス・グループ」として、これまで以上に経済の成長と社会の発展に貢献して参ります。

株主の皆様におかれましては、何卒、倍旧のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2013年11月

(単位:億円)	第110期1Q (2013.4.1～6.30)	第110期2Q (2013.7.1～9.30)	上半期累計 (2013.4.1～9.30)
収益合計 (金融費用控除後)	4,313	3,564	7,877
税引前当期純利益	1,132	729	1,862
当期純利益*	659	381	1,040

*「当期純利益」は当社株主に帰属する当期純利益

決算の詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.nomura.com/jp/>

野村 株主・投資家

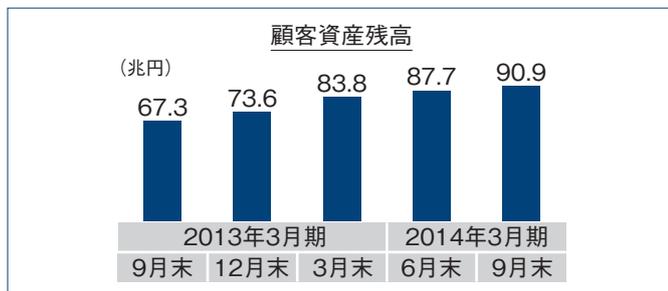
検索

<決算のポイント>

- 第1四半期は、営業部門を中心に日本関連ビジネスが好調に推移し、当期純利益は659億円と、前年同期と比較して大幅な増収増益となりました。
- 第2四半期は、日本関連ビジネスを中心に第1四半期からは減速し、当期純利益は381億円となりました。
- 上半期累計の当期純利益は1,040億円となり、2003年3月期上半期以来の高い水準を記録しました。
- 営業部門、アセット・マネジメント部門、ホールセール部門の三部門全てが昨年上半期と比較して増収増益となりました。中でも営業部門は、2002年3月期以降で最高水準となる税引前利益を達成しました。

営業部門

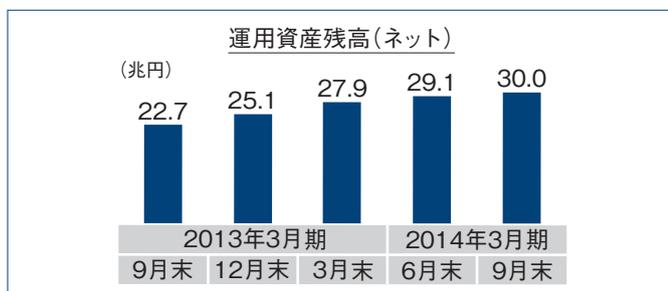
(単位:億円)	第110期1Q (2013.4.1～6.30)	第110期2Q (2013.7.1～9.30)	上半期累計 (2013.4.1～9.30)
収益合計 (金融費用控除後)	1,663	1,197	2,861
税引前当期純利益	811	400	1,211



- 第1四半期は、株式市場の活況を受け、株式やエクイティ関連の投資信託が好調で、2002年3月期以降で最高の収益水準となりました。
- 第2四半期は、市況や先行きに対する不透明感等から、株式関連の募集買付は一服しましたが、外国債券を含む債券関連の販売が好調となり、特に個人向け国債の販売は過去最高を記録しました。
- コンサルティング営業を継続した結果、株式や債券を中心に1兆円を超える顧客資産の純増となり、お客様からお預かりしている資産残高は90兆円(9月末時点)を突破しています。
- NISA関連セミナーは、約1,100回開催し、約3万人にご参加いただきました。9月末の口座申込数は85万口座(予約を含め100万口座)となっています。引き続き、お客様の信頼獲得とビジネス拡大の両立に向け、様々な施策を進めていきます。

アセット・マネジメント部門

(単位:億円)	第110期1Q (2013.4.1～6.30)	第110期2Q (2013.7.1～9.30)	上半期累計 (2013.4.1～9.30)
収益合計 (金融費用控除後)	202	186	388
税引前当期純利益	67	62	129

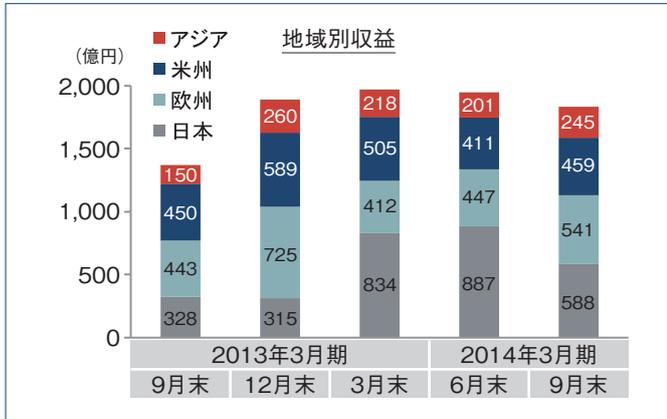


- アセット・マネジメント部門では、投資信託ビジネス、投資顧問ビジネス共に資金が流入し、第1四半期、第2四半期共に高い水準の税引前利益を達成しました。
- 投資信託ビジネスでは、日本株・高配当株を中心とする既存投信に引き続き資金が流入しました。投資顧問ビジネスでは、海外の有力運用会社からの日本株ファンド運用やハイ・イールド債券運用等の受託が増加しました。この結果、運用資産残高(ネット)は、2007年9月末以来の30兆円(9月末時点)となりました。
- NISAに適した商品の提案を積極的に行い、地方銀行を中心に販売会社数を拡大しました。引き続きセミナー等を通じて、投資家の裾野拡大へ向けた取組みを推進していきます。

ホールセール部門

(単位:億円)

	第110期1Q (2013.4.1~6.30)	第110期2Q (2013.7.1~9.30)	上半期累計 (2013.4.1~9.30)
収益合計 (金融費用控除後)	1,946	1,833	3,780
税引前当期純利益	252	253	505



●第1四半期は、株式をはじめとした市況の改善や、収益機会の拡大により、地域別では日本が収益を牽引して、好調だった前四半期に次ぐ高い水準の収益を確保しました。

●第2四半期は、日本関連ビジネスが減速しましたが、アジア、米州、欧州の海外三地域が健闘しました。第1四半期と比較すると、収益は減少しましたが、コスト構造の見直しによる収益性の向上等により、税引前利益は第1四半期と同水準となりました。

<コスト構造の見直し>

2012年9月に発表した総額10億ドルの追加コスト削減については、本年9月末時点で達成いたしました。引き続き、収益性の更なる改善に向け、様々な施策を実行していきます。

グローバル・マーケット

- 第1四半期は、市場の株価や金利水準が大きく変動する中、全地域で顧客フロー関連の収益が拡大し、堅調に収益を計上しました。
- 第2四半期は、市場の売買高が低調に推移する中、収益は第1四半期と比較して3%減にとどまりました。フィクスト・インカムでは金利、為替プロダクトが改善し、エクイティでは、株式執行ビジネスが引き続き安定して収益を確保しています。

インベストメント・バンキング

- 第1四半期は、世界的に株式市場が堅調に推移する中、国内外で大型IPO(新規公開)をはじめとした高プロファイルな案件を多数獲得しました。
- 第2四半期は、引き続き企業等による旺盛な資金需要を背景に、国内外で多数の株式関連案件に関与しました。また、海外では欧州を中心に複数のフィナンシャル・スポンサーや金融機関向け案件の執行等で成果をあげました。

株主メモ

■ 中間配当について

- 9月末を基準日とする配当金につきましては、国内外の金融資本規制動向、連結業績等を総合的に勘案し、1株当たり8円とさせていただきます。
- 配当金は、2013年12月2日(月)よりお支払いを開始いたします。

* 「配当金領収証」にてお受け取りの株主様は、最寄りのゆうちょ銀行本支店および郵便局等にて、払渡期間(2013年12月2日から2014年1月7日まで)内にお受け取りください。

* 「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、添付資料としてご使用いただくことができます。
(確定申告をされる株主様は、大切に保管ください。)

■ 「税金の本」抜刷縮小版



ご愛顧いただいております「税金の本」をもとに、特に今後の税制改正のポイント、新しくスタートする非課税制度の“NISA”の概要をまとめた小冊子です。本誌ともどもご活用ください。

■ 年末贈呈品のご案内

[カレンダー]

9月末時点で、当社株式を1,000株以上保有されている株主様(希望者)にお送りしています。

[税金の本]

来年度より冊子での送付に代えて、当社ホームページでの掲載とさせていただきます。

お問い合わせ先:

裏面に記載の野村ホールディングス管理部まで

野村のNISA口座なら

大切な100万円の非課税枠を毎年効果的に使うために
お客様に合った資産運用プランをご提案いたします。

野村ならではの
充実の商品ラインアップ

&

お客様とともに考えます
納得のコンサルティング

詳しくは、下記「NISA 専用ダイヤル」まで

—NISA 口座開設にあたってはご注意ください事項もございます—



担当者と相談しながら
本店・各支店



インターネット・電話で
野村ネット&コール

 0120-525-065

平日 8:40～17:10 (土曜・日曜・祝日・年末年始を除く)

※お取引および個別の商品に関するお問い合わせは、お取引店までお願いします。

*ご利用の際には、電話番号をお間違えないようご注意ください。なお、時間帯により、電話が集中してつながりにくい場合がございます。あらかじめご了承ください。

 0120-500-646

平日 8:40～20:00 土曜・日曜 9:00～17:00 (祝日・年末年始を除く)

※フリーダイヤルの前に186(電話番号通知)をダイヤル(プッシュ)することで、ご利用いただけます。

【手数料等およびリスク事項について】

当社で取り扱う商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等(国内株式取引の場合は約定代金に対して最大1.365%(税込み)(20万円以下の場合、2,730円(税込み))の売買手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料および運用管理費用(信託報酬)等の諸経費、等)をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失が生じるおそれがあります。商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

野村証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第142号

加入協会/日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

 それ、野村にきいてみよう。 **野村証券**

野村インベスター・リレーションズからのお知らせ



「知って得する株主優待(2014年版)」

野村インベスター・リレーションズ(株)では、株主優待情報をご紹介します「知って得する株主優待(2014年版)」を刊行し、ご好評をいただいております。

株主優待も参考に株式投資の銘柄を探してみたいかがでしょうか。

※「知って得する株主優待(2014年版)」は、全国の書店、コンビニエンスストアで発売しております。

株主優待情報は、**ウェブサイト**でもご確認いただけます。

<http://yutai.net-ir.ne.jp/>

知って得する株主優待

検索

株式事務のご案内

事業年度：4月1日～翌年3月31日

定時株主総会：毎年6月中に開催

株主名簿管理人/特別口座管理機関：三菱UFJ信託銀行

(連絡先)

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

フリーダイヤル 0120-232-711(東京)

0120-094-777(大阪)

[受付時間 平日9:00～17:00]

* ゆうちょ銀行払渡期間経過後の配当金および特別口座に記録された株式に関するお手続きについては、左記の三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。

* 株主様の各種お手続き(住所変更、配当金の振込指定、単元未満株式の買取・買増請求等)については、口座を開設されている証券会社にお問い合わせください。

中間報告書についてのお問い合わせ先：

野村ホールディングス株式会社 管理部

〒103-8645 東京都中央区日本橋1-9-1

電話 03-5255-1000(代表) [受付時間 平日9:00～17:00]